

第 2 号
昭和44年12月21日発行
豊中・サンマテオ
姉妹都市協会
事務局 豊中市企画部
企画課(54)1121



加州住友銀行サンマテオ支店誕生

(写真は、ヒルスディール・ショッピング街にできた加州住友銀行サンマテオ支店の開店を祝って、はさみを入れるサンマテオ市長 ヒューA. ウェイン氏と豊中市長 竹内義治氏)

サンマテオ市を訪問して

豊中市長 竹内 義 治

はじめに

アメリカ合衆国・カリフォルニア州・サンマテオ市と豊中市とは、姉妹都市を提携して以来6年になる。今年はたまたまサンマテオ市は、市制施行75周年（1894年創建）の記念すべき年に当る。私もサンマテオ市については深い関心を持っていた。それは、大阪市の姉妹都市サンフランシスコ市の郊外都市と云う豊中市とよく似た条件もさることながら、アメリカの中小都市、特に大都市圏の中の衛星都市の実態を知りたかったからである。

もう一つは、去る昭和42年7月バリの国際清掃会議のため欧州へ出張の帰途、サンマテオ市を訪問することにしてしたが、たまたま7月豪雨のためハンブルグから急ぎ帰国し、サンマテオ訪問を中止したこともあって、サンマテオ市長からもたびたび招待を受けていたので、今回、機会を得て7月30日から8月6日までサンマテオ市を訪問した。

短い旅行期間であったので、あれも見たいこれも調べたいと思いつつ、忙しい日程に追われて、充分目的を達せられなかったことは残念であったが、幸い、ウェイン市長、アンダーソン姉妹都市提携委員会会長、ジム中田氏及び加州住友銀行の山崎頭取、中野富正氏、斎藤サンマテオ支店長、池田早苗日本人会会長をはじめ、市当局、サンマテオ市民、在米日本人の方々の御好意で、サンマテオ市とサンフランシスコベイエリアの実態を概見することができ、各界の有力者とも懇談する機会を与えられたことは、極めて幸運であったとともに、多くの資料と教訓を得ることができた。関係者に深く感謝を申し上げる次第である。以下、私の見聞したサンマテオ市の概況をお伝えしたい。

サンマテオ市の概要

アメリカでも、大都市への産業人口の集中傾向は旺盛であるらしく、サンフランシスコでも南部地域においては丘陵を住宅が埋めつくし、サウスサンフランシスコへ人口が溢出し、母都市サンフランシスコの拡大傾向が顕著となりつつある。

とくに、101号フリーウェイに沿って新しく産業の進出が目立っている。狭いサンフランシスコでは新しく住宅や産業が立地することがむづかしいため、ベイエリアへ市街地が拡大しつつある現状は、大阪市とその周辺の都市の実情と似ているようである。

サンマテオ市はサンフランシスコ市の衛星都市で101号フリーウェイのほか、鉄道は1本あるが交通量は少い。

サンマテオにおける主要道路は、101号フリーウェイのほかサンフランシスコ湾をまたぐサンマテオ湾橋によって、対岸アラメダ郡に通ずる国道90号道路のほか、101号フリーウェイに併行する古い有名なエルカミノ街道がある。

サンマテオ市の面積は34平方キロで豊中市の36.6平方キロとほぼ同じである。海岸線に沿った平坦地とそれにつづく丘陵地からなっている。

気候は、シェラネバダ山脈と海岸山脈にはさまれた比較的温暖な地域で、雨期は1月から4月でそのほかは乾期である。

都市全体が住宅都市で、一部の商業地域を除いては工場地域がなく、樹木や芝生によって囲まれた美しい平屋建の1戸建住宅が多い。

市の調査書によると、1戸建住宅58.3%、2戸乃至4戸建長屋11.2%、アパート20.5%で圧倒的に1戸建が多い。

また、1戸建住宅に住む人口は54,610人で68.9%を占め、長屋に住む人口は7,401人で9.3%、アパートに住む人口は16,192人で20.5%、寄宿舎に住む人口は1,015人で1.3%となっている。

更に、住宅事情は、

- 1 寝室が5,040世帯で18.2%
- 2 " が8,822 " で31.9%
- 3 " が9,826 " で35.6%
- 4 " が1,511 " で5.5%
- 5 " が296 " で1.1%
- 6 " が58 " で0.2%
- 7 " 以上が23 " で0.1%

と圧倒的に2~3寝室の世帯が多いようである。

持家人は51.8%、借家人は42.4%で居住期間は5年未満56.5%、5年以上は37.5%で新しい市民の多いことを示している。

市民の就業地は

- サンマテオ市内 32.8%
- サンフランシスコ市 23.6%
- 北部サンマテオ郡 24.8%
- (サンマテオとサンフランシスコの間)
- 南部サンマテオ郡 13.1%

サンタクララ郡 3.6%

アラメダ郡 2.0%

(サンフランシスコ湾のサンマテオ市対岸)

その他 1.0%

で母都市及びその接続の地域に多いようである。

市民所得は、

年収10,000ドル未満 53.0%

年収10,000ドル以上 47.0%

であり比較的所得は高いようである。

都市計画委員会にて

市都市計画委員会の委員長ボージェス氏を訪問、サンマテオ市の都市計画について質問をする。

「大都市とその周辺の都市がそれぞれ行政的に独立していることは、交通問題をはじめ行政のあらゆる分野で非効率であり、行政の効率化のいう点からも一体的にすべきであるという所謂大都市拡張論（都市合併論）があるが、サンマテオとサンフランシスコの間にこのような問題はないか。」

これに対して、「やはり、その問題はサンフランシスコから起きている。しかし、市民は今のままの方が良いという考えを変えてはいない。しかし、若い市民はこの問題に関心を持ちつつある。」

「サンフランシスコベイエリアにはいくつ位の都市があるのか。」

「100都市ぐらいある。」

「サンフランシスコベイエリアは大きくなってくるとどうが広域的な仕事としては何をやっているのか。」

「大衆輸送のための高速鉄道を建設している。しかしこの建設は、予定より経費が多くなり公債発行についての住民の同意が得られないので困っている。

(このことについては別項「サンフランシスコオークランドベイエリアの交通問題」参照)」

「サンフランシスコ空港のジェット機騒音について住民の苦情があるか、あるとすればどのような対策をしているか。」

「現在の航空機の航路を変える考えはない。騒音の対策としては建物を鉄筋化することを考えている。

最近、新聞でネバダの方に大空港を建設して、大型機をここに移してそれから小型機で運ぶという考えも出ているようだが、実現性は薄いだろう。」

どこでも飛行場の騒音についての対策については決め手がないようである。

サンフランシスコ国際空港へは外国線国内線の飛行機が間断なく離着陸している。

しかし、この空港はその主進入路が海上に向っているので、大阪国際空港とは著しく条件が異っている。

ボージェス氏のほか建築家のビーポディ氏、ジョンソン氏、ニューヨーク生命保険サンマテオ支店長、ビューサーズ氏らと昼食を共にしながら都市計画の問題について意見を交換する。

サンマテオにおける都市計画の問題は、ゾーニング（用途地域制）にある。

住宅地域と商業地域ははっきり分けられているが、最近ではやはり新しいショッピングセンターを建設することが行なわれている。

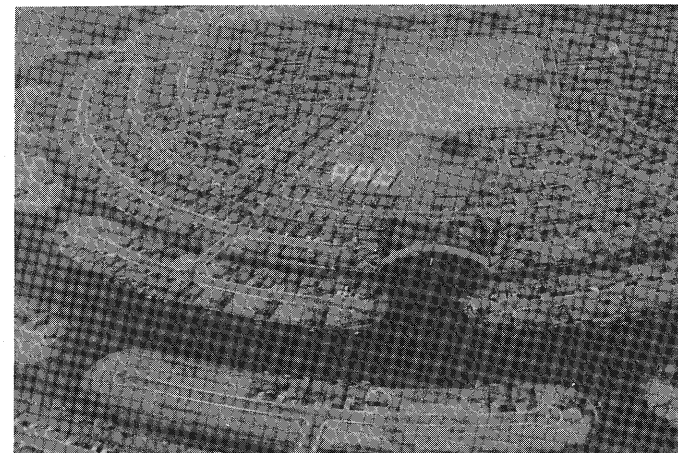
アパート、スーパーマーケット、専門店、銀行などの公益施設を一カ所にまとめて機能的に建設するもので、加州住友銀行サンマテオ支店もこのセンターにある。

広い駐車場を持ち、すべての店舗の車輻のサービスはすべて地下の駐車場からという合理的なものである。

さらに、ハイウェイのインターチェンジの周辺には新しいホテルの建設がはじめられる等、郊外都市からだんだんと都市核を持ちつつあるようである。

このランチオン・クラブも商業地域に新しく建てられたビルのなかにあり、サンマテオ市内財界トップレベルのクラブである。

住宅都市から核都市へと転化しているサンマテオは、千里ニュータウンのなかにデパート、ホテル、ショッピング街を建設しつつある豊中市といくつかの共通点を持っているようである。



ホスターシティの全容

ホスター・シティの住宅開発のプランニングについて質問したら、ホスター・シティのプランニングは個人の住宅経営によるもので、多くの問題があり、市と郡の都市計画委員会の意見によって、計画を調整しながら建設しているようである。

アメリカの場合、民間デベロッパーは良心的で、都市計画委員会の意見をよく採り入れるようである。

また、建築法規を遵守する良識を持ち、そのアイデアはすこぶる大胆で斬新的なものが多い。

ホスターシティ

日航機がサンフランシスコ空港に着陸する際空港上空を旋回する。このとき窓から見るとホスターシティという住宅建設地を眼下にみて、オヤッと思った。サンマテオ市の海岸線に沿って広いデルタ地帯があり、曲りくねった水路があり、盛んに埋立て造成をしている。

新しい都市を建設するのか、それにしては規模は大きくはなさそうである。

私は一寸興味をおぼえたので、アンダーソン夫人に現地を見たいと希望したら、アンダーソン氏、ジム中田氏と共に車で案内をして下さった。

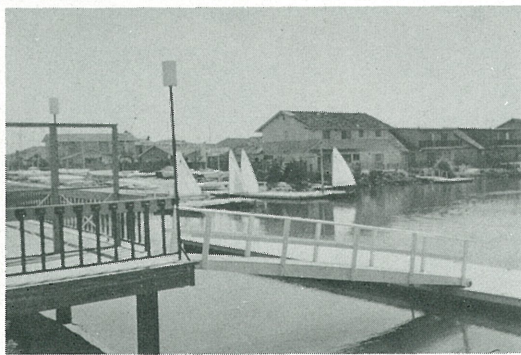
この一帯はホスター氏の所有地で、住宅地として開発して売出しているの、ホスターシティと名付けられているが、まだ市ではなく、サンマテオ郡の一部だそうだ。

サンフランシスコ湾岸のデルタ地帯で蛇のように細長い水路が曲りくねっているが、この水路を利用してヨットが裏庭に横付けられるよう宅地割りが行なわれている。

すでに住宅が立ち裏庭の水際には小形のヨットが横付けられていた。

サンフランシスコ湾は潮の満干が少いのか意外に埋立て地は水面に比べて高くない。水路は海水が入ってくるようになっていて、水はきれいである。

住宅地では、ショッピングセンター、小学校、消防署な



庭先まで入り江があって、ヨットが浮ぶ住宅地
——ホスターシティ——

どの公共公益施設が先に建設されていた。

住宅は、殆んど木造建築である。庭園に日本風のものも多いので、聞いてみたら、庭園業は日系人が多いこと、日本庭園が手入れに経費がかからないことなどがその理由だそうである。

この住宅地は、サンフランシスコ国際空港の着陸コースにあるので、騒音が気にならないかと聞いたら、アンダーソン氏は私もここを買いたいと思ったが飛行機の騒音があるのでやめたと答えていた。

サンフランシスコ湾は案外浅い所が多く、サンマテオ橋の建設によって交通が便利になり、湾の埋立てがふえているようだが、湾を埋め立てると「鳥が可愛そうではないか。」「魚が可愛そうではないか。」という自然愛護者から埋立て禁止をせよという意見があり、州の議会で法案を検討中とのこと。

日本の国土より広いカリフォルニア州に 2,000万人しか住んでいない国であるから、海を埋め立てなくてももっと住宅地に適当な土地は随分あるだろうに、人間はやはり、人が集る所へ集ってくるのであろう。

それにしても自家用ヨットを自分の家の庭先から海面へ浮べるような生活をするアメリカの市民生活は、うらやましい限りである。

サンマテオ—ヘイワードベイブリッジ

私が今回サンマテオ訪問するに当って、一番先に見学したいと考えたのが、サンフランシスコ湾に架けられたいくつものベイブリッジであった。有名なサンフランシスコ—オークランドベイブリッジやゴールデンゲイトブリッジ(金門橋)は1961年訪米の際見学をしたが、湾の中央部に架けられたサンマテオ—ヘイワードベイブリッジについて大きな興味を持っていた。

本州、四国の湾橋の実現が具体化しつつある今日、湾橋の持つ経済性は高速道路の比ではないであろう。本州と四国、あるいは本州—淡路島—四国が結ばれることは、島国である我が国の悲願であり、国民的課題である。

そのルートが明石—徳島、児島—坂出、尾道—今治のいずれになるかは別として、1日も早く着工されなければならないと思う。それらを試金石として、必ず大阪湾にもいくつもの湾橋が出来ることに大きな期待を持つ。

サンフランシスコ湾には有名な金門橋のほかに、

サンフランシスコ—オークランド

リッチモンド—サンラファエル

ベニシア—マルチネス

カークイネツ



サンマテオ—ヘイワードベイブリッジ管理事務所
架橋の説明を聞く竹内市長

サンバートン

サンマテオ—ヘイワード

の有料橋が架けられている。

サンマテオ—ヘイワード橋はサンフランシスコ湾の中広い部分に、1929年長さ7.4マイル(11.9km)にわたって開通された。

カリフォルニア州は、1951年に6百万ドル(21億6千万円)でこの橋の持主から買収した。もともと2車線の低い構造物であったが7千万ドル(252億円)をかけて新橋が建設された。

この橋は船舶航行のため中央部は開閉橋であったが、新橋は760フィート(228m60)のスパンをもち、海面から橋桁までの高さは138フィート(42m06)あり、船舶航行を妨げない構造となっている。この部分は6車線で他の部分は4車線となっている。

この橋は一直線ではなく「く」の字に曲って建設されている。これは水深及び船舶の航路の関係で設計されたもので、サンマテオ郡の19番街及び、ベイショアフリーウェイと対岸のアラメダ郡の国道50号線とを結んでいる。

この橋の建設は有料架橋公団(Toll Bridge Authority)が行ない、通行料でペイするようである。建設費は州の補助はなく、他の有料橋の収入をもって充てたそうである。

この公団は1963年11月18日設立され、カリフォルニア全州の有料橋(サンフランシスコベイエリアのほか、サンディエゴ、ロスアンゼルス

にもある。)の計画及び建設を担っている。

以前はサンフランシスコ湾を渡るのにはフェリーに依存していたが、フェリーでは増加する自動車交通に対処できなくなり、橋を建設した。

しかし、現在では建設当時の計画をはるかに越えた自動車交通のため、橋梁の通行量に限界が生じ交通停滞を来している。

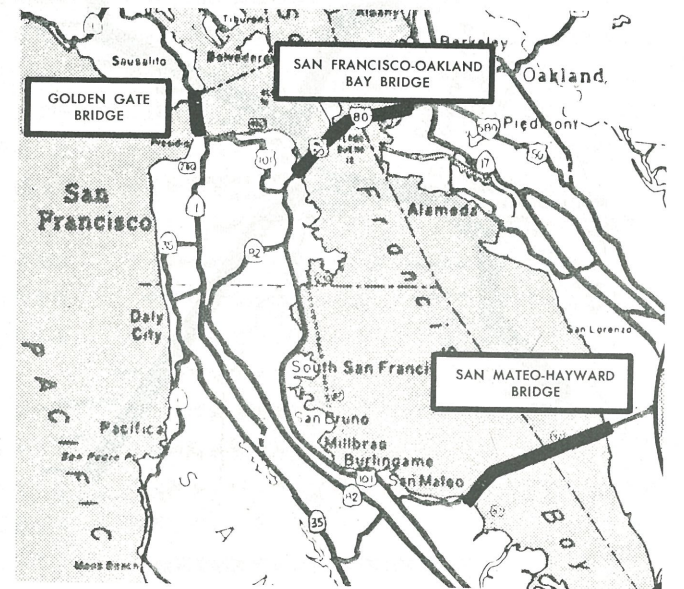
たとえば、サンフランシスコ—オークランドベイブリッジの交通緩和のため、この橋のサンフランシスコ湾南部に新しい橋を建設する計画が進められている。

なお、別稿で紹介したとおり、有料橋の通行料の一部をサンフランシスコ—オークランドの高速地下鉄道の建設財源に充当することが、州議会によって承認された。

私は、阪神都市圏に阪神高速道路公団ができて、停滞する自動車交通の緩和に大きな役割をはたしていると同様、アメリカではオーソリティ方式が活用され、個々の市町村の利害を超越して問題の処理が行なわれていることに、大きな関心を持つものである。

阪神都市圏は将来必ず阪神—淡路島—友ガ島—和歌山—阪神と大阪湾岸道路の建設が必要となり、現在の大阪湾の水深を考えると必ずしも不可能な議論とは思わない。

そうすれば、阪神都市圏は淡路島から四国方面まで拡大され、都市の過密の防止、都市機能の分散に大きな役割をはたすだろうということを期待する。あながち、素人の夢物語とは思えない。



サンマテオ—ヘイワードベイブリッジの位置

サンフランシスコオークランド ベイエリアの交通問題

サンフランシスコ市（人口77万人）のほかサンフランシスコ湾東のオークランド市、リッチモンド市などを含め、大サンフランシスコ市と総称する場合がある。

このメトロポリタンエリアを含む大サンフランシスコ市の人口は、230万人に及ぶ。

（中馬大阪市長がよく大阪市の人口は300万人であるが、外国流にえば600万人であると云う。）

この大サンフランシスコ（Greater San Francisco）では、大量輸送機関として公営高速鉄道を建設中である。

その概要は

営業路線 延長75マイル（120 km）

—地下21マイル、湾底トンネル4マイル、高架22マイル—

車輛 450台

電動快速車、平均時速70マイル、オートメーション・トレイン・コントロール付、ラッシュ時運転90秒間隔

駅 38駅

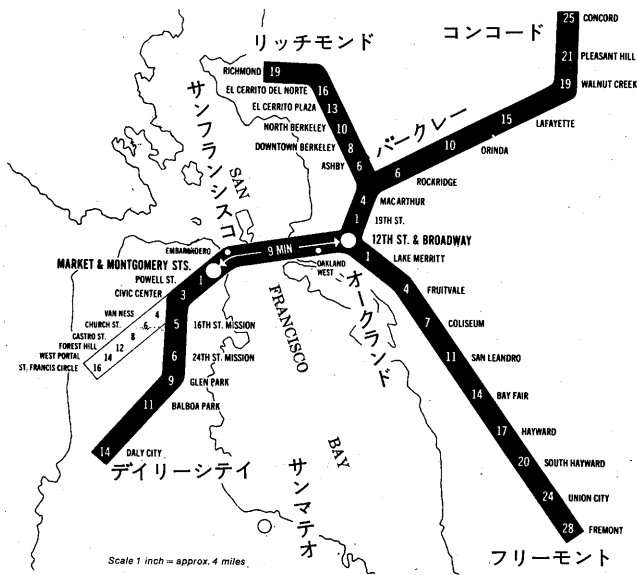
自動改札制採用

市外地区は駐車場付

建設期間 8年

総事業費 12億ドル（4,320億円）

「自動車より速く、乗心地がよく、且つより安全」というのがキャッチフレーズで、全事業計画完成の上は、最近技術の粋を集めた世界屈指の高速鉄道となる見込である。



サンフランシスコベイエリア高速交通網

サンフランシスコオークランド間の湾底トンネル敷設工事は、予め57区に分けて製作された鉄筋コンクリート製のトンネルを次々と海面から沈めていくという、画期的工法（沈埋工法）をとっている。この事業はSan Francisco Bay Rapid Transit System（BART）が実施している。

もともとこの計画は1951年にはじまり、その後計画概要が固まってBARTが設立されたのが1957年、そして総工費が見積もられ、これに基づいて起債7億9,200万ドルの可否が、住民投票に付せられたのが1962年である。当初計画をはじめてから11年を経過している。この期間は産みの苦しみの時代であった。

当初計画に加わった湾域5郡のうち2郡が脱落（サンマテオ郡も加わっていないのでサンマテオには鉄道が来ない。）し、このため計画の一部を縮小し、現在はサンフランシスコ、アラメダ、コントラコスタの3郡もかろうじて61.2%の住民投票賛成票により漸く前進が決せられた経緯である。

このような結果になったことは、起債の償還が、当然ながら向う35年間にわたる増税の形で、地元住民にかなりの負担を強いるからである。

事業実施の当初から資金調達には、かなりの無理を覚悟でスタートしたBARTだけに最近になって総工費が当初10億ドルから12億ドルにふえることが判明し、同時にこれから建設費支出のピークを迎える折柄、BARTの首脳部も少なからずあわてはじめた。

当初から多少のインフレは折込んで資金計画を立て起債額を定めていたが、数年来予想外のインフレの進行のため、資金計画に齟齬が生じたものである。

この不足額を政府補助に仰ぐか、州からの救済に頼るか、あるいは再び住民投票に訴えて追加起債の賛成を得るかの解決にせまられた。

BARTは全くの苦境に立ったが首脳部の一部更迭を経て、州の幹施により若干の政府補助と有料架橋公団（Toll Bridge Authority）の収入財源を振り向けることで事業継続の目途が立ち、一時中断された工事が再開された。

このため、予定の完成時期1970年は大巾に延び1972年に変更される見通しである。

大阪市では悪化する都市の交通マヒと昼間流入人口の激増に対処して路面電車を廃止し地下鉄工事を進めているが、やはり建設財源に大きな問題がある。都市交通の大量輸送機関の建設

にはやはり大巾な政府の援助がなければ、解決のむずかしい事業である。

しかし、中馬市長の今にして地下鉄をやらないと将来大きな問題を残すとして、財政問題の困難さを克服して地下鉄建設に努められる勇気には敬意を表する。

サンマテオの住民の中にもサンマテオサンノーゼーフリーモントを結ぶ湾一周の鉄道を考えるべきだとする意見も根強く残っており、おそらく建設中の高速鉄道の完成後は再び問題となるであろう。

それにしても、現在の高速鉄道は大阪市域内に限定されているが、少く共大阪都市圏へ大阪市地下鉄の延長を図るべきであろう。

万国博を機に地下鉄1号線と北大阪急行、地下鉄5号線と阪急千里山線の相互乗入れが実現するが、大阪市の周辺部における交通需要と都心機能の分散の進行に伴って、大量輸送機関の建設は最も重要な都市問題になるだろう。（この稿は加州住友銀行中野氏の資料による。）

カリフォルニア水道サービス会社

サンマテオ市には水道局がない。水道は民間会社経営だと云うので、この会社を訪問して話を聞いてみた。

水道料金は、基本料金（水を使わなくても支払う）が月2ドル50セント（830円）で100立方フィート（750ガロン、2.8 m³）毎に36.1セント（1 m³46円50銭）である。10 m³まで210円超過1 m³毎に30円の豊中市の水道料金に比べたら高い気もするが、所得・物価に比べて1ドル100円くらいだからむしろ安い方だろう。1戸当りの月平均水道料金は8ドル50セント（3,060円）であり、家庭用、工業用等の区分はなく、均一料金である。ただし、この料金はサンマテオの料金で、全カリフォルニアでは地域によっては異なるのである。料金は州の公共料金委員会が認可する。

水道施設の建設には、州、郡、市の補助金はなく、すべて施設を担保とする社債の発行によって賄う。社債は1回300万ドル（10億8千万円）を発行する。社債は軍人恩給連盟等が買っているそうである。

このようなシステムは全米的である。アメリカでは地方公共団体が競合している所もある。しかし、地方公共団体の方が料金が高つく。それは経営の能率が違うからである。民間会社には技術者が多い。

アメリカでこのようなシステムが生れたのは、町ができると水がいる。その水を供給するためには、遠い所から水を引いてこなくてはならない。市町村が個々にできないので企業として発達してきたとのこと。サンマテオ郡としても遠くシエラネバダ山脈の雪どけ水を延々と引いてきて、

サンフランシスコ湾底をくぐり再びサンフランシスコ半島の山脈にダムを作って貯水し、配水をしているという雄大な水道である。

私は「人口や産業が集中し、水道の需要が増し施設の拡張をする場合、料金を引き上げるのか」と尋ねたら、「いや、料金は上げない。社債によって賄う。料金は州の公共料金委員会の認可が必要だ。」

「市長は水道の供給に責任はないのか。」

「水道に関する苦情は一切会社にくる。会社で処理するが、州の委員会が苦情を処理する場合もある。」

我が国は、水源が手近にあり、雨量も多くて安易に水道が建設されるので個々の市町村が水道を経営してきた経緯があるが、水質の汚濁、産業の発達、人口の都市集中による水需要の増大に伴って、水質源の著しい不足を来し、施設の拡張につく拡張をしなければならず、このため経営の悪化を来しているが、しかし反面施設の重複などのむだもないとはいえない。思い切った広域水道経営の必要性が痛感される。

下水処理場

私は、かねがね欧米の下水道は非常に進歩していて、我が国の下水道は欧米諸国に比べて100年遅れていると聞いていたので、是非下水処理場を見せてもらいたいと希望し、市の技師長の案内で市内下水処理場を見学した。

この下水処理場は、海岸近くの埋立地にあり、目下施設の建設中で一部稼働をしている。

処理場の近くは、最近住宅地として開発された地域らしく、新しい住宅の多い閑静な場所である。

目下90,000人の規模の処理場を建設中とのことであるが、施設の規模は小さく日本によく見かける化学処理場か、し尿処理場のようでどう見ても立派な施設とは思えない。

技師長にフローシートに従って案内をしてほしいと希望したが、彼もよく判らないらしい。工場の技師（リー氏という中国系アメリカ人）に説明をしてもらった。

市内から集められた下水はポンプで円形の最初沈澱池に送られ、クラリーヘイヤーで汚泥を沈下させる。

この下水道は合流式で、雨天時と高潮時は、海水が逆流するのでゲート操作によって、別の濁流ポンプで6マイル沖のサンフランシスコ湾の海中へ放流するようである。

汚水は最初沈澱池だけで処理され、塩素滅菌後放流される所謂簡易処理方式のようである。（注 豊中市では、最初沈澱池、バッキ池、最後沈澱池で三段処理する所謂高級処理方式である。）

放流水を見るとあまり水質が良くないのでBODにいく

らかと聞いたら150 PPMだと言う。こんどはSSはいくらかと聞くと120 PPMだと答えた。(注 豊中市では放流水のBODは平均15 PPM、SSは平均30 PPM)

それでは、サンフランシスコ湾の水質が汚濁するのではないかと。州や郡の方から苦情を言われないのかと聞いたら。いや、やかましく言われているのだ、近く更に沖の方で第2次拡張計画を進める予定であると話をしていた。

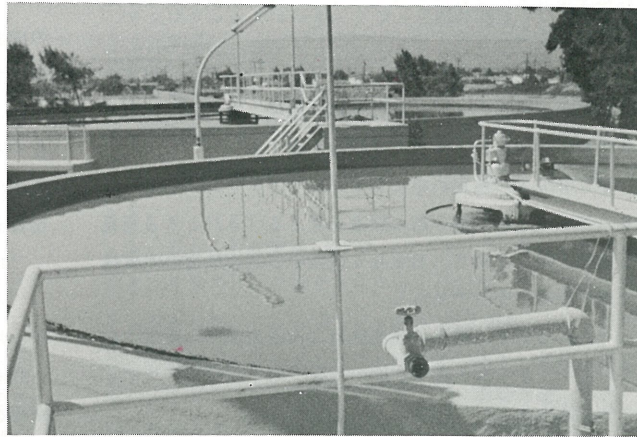
汚泥処理は好気性処理らしく生汚泥にエアレーションをしていた。臭気が強い。消化汚泥は、脱水の上、多段式燃焼炉で焼却するそうで、その焼却炉は殆んど完成していた。

炉に登ってみると煙突が低いので、これでは臭気の問題が起きるのではないかと質問したら、1,800度で燃焼するのでその心配はないとのこと。燃料は勿論ガスである。

周囲に新しい住宅地ができつつあるが、住民の苦情がないかと質問したら。ノーと答えていた。

しかし、汚泥処理を一部天日乾燥をしているようだし、どうも初歩の段階に思えた。処理場の事務所はまだ内部施設中で、技術者も少い、水質検査室も貧弱でどう見ても我が豊中市の処理場の方がはるかに秀れている。

技術長に、この処理場の設計は市の方でやったのか、コンサルタントでやられたのかと聞いたら専門家にやられた



サンマテオ下水処理場

と答えていた。

どうも技師長も下水の方は苦手らしく、あまり専門的な質問をするので、通訳に、「市長は技術屋か。」と聞いていた。

私は、「いや違う。日本では下水道の問題については、著しく立ち遅れているので、すべての市長は、下水道について大きな関心を持っている。市長もこのくらい熱心に勉強しないと問題の解決ができない。下水道には苦勞をしている。」と答えたら、彼はどうも合点がいかないようだった。彼は日本の市長とアメリカの市長の違いをご承知ないらしい。

下水道の建設費については州から $\frac{1}{3}$ の補助がある。(豊中市では国から $\frac{1}{10}$ 、府から $\frac{1}{5}$ 、計長の補助がある。)

サンマテオ市の下水道施設だけを見て、アメリカ全体の下水道を評価するわけにはいかないが、アメリカでも中心都市の下水道はやはり立ち遅れていることは我が国の例とは変わらないようである。

外国では、こうだと言われるが、一部分だけ見て評価することの如何に間違いを起こすかと言うことがよく判った。それにしても、日本の下水道の技術がそう遅れていないことを大いに喜しく思った。



サンマテオ下水処理場にて

サンマテオ大学

——コミュニティ・カレッジ——

アンダーソン夫人の案内でサンマテオ・ジュニア・カレッジを訪問、学長イーヴィングベン氏に面会しお話を伺った。この学校は、サンマテオ郡学校区(アメリカでは郡の政府とは全く別に学校区があり、一種の特別地方公共団体で課税権、起債権を持っている。公選による5人の委員で運営されている。事務局にマネージャーを置き、起債には住民投票が必要である。学校の財政は州から $\frac{1}{3}$ の補助がある。補助金は学生1人当り学生の出席率によって計算される。連邦政府からは特別教育一職業訓練一についてのみ5%以下の補助がある。それ以外は税金(教育税)で賄い、税負担は62%に相当している。州には視学官がいるが発言力は少い。学校区独自の運営を行なっている。)の設立である。学生は全日制7,500人、夜間制12,500人である。サンマテオ郡には高校が3校あり、生徒が85,000人いる。この学校の学生は今までもっと多かったが、現在学校区で2校新設し、収容の適正化を図っている。外国留学生は150人、カリフォルニア州以外から250人、サンマテオ郡以外から500人が通学しているほかは、サンマテオ郡の区域から通学する。特に外国留学生を優遇し、授業料は免除、1週間15時間働けば住宅については民宿を世話するそうである。

私は大学紛争に関連して、ここの大学では学長は教授会で選ぶのかと質問したところ、学長は教授会で選ぶのではなく、学校区の運営委員会(選挙で選ばれる)で任命され、委員会の決議で学校の経営に当たっているそうである。教授会は、カリキュラムだけについてのみ権限がある。

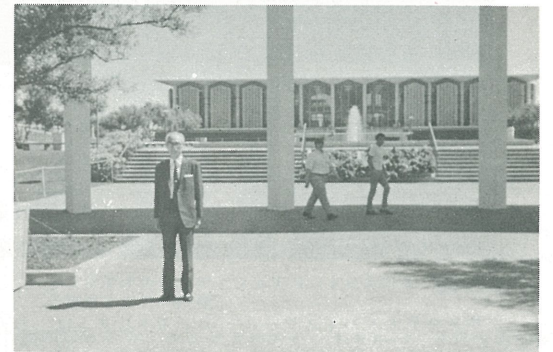
更に、学長には教授の任免権があるのかと云う質問に対し、学長は学校区に対して教授の任命について内申するだけである。学長は、教授会に適当な人物を推薦するよう依頼するが、この場合は必ず複数で推薦するそうである。

日本の大学紛争について感想を聞いたところ、「日本の大学システムはヨーロッパ方式であるが、アメリカシステムに変わりつつある。ヨーロッパの国々でも古い方式から新しいシステムに変るだろう。ジュニア・カレッジは、日本では同じものがないだろう。このカレッジは2年制である。社会に奉仕するため別の大学(2年制)に進学することもできる。このカレッジは進学する者だけでなく、特別な技術を修得するために勉学する者、社会で働きつつ勉学するものが多い。必ずしも単位をとるために勉強をしていない。勿論単位のあるものもある。夜間学生の多いのはこのためである。むしろ、社会大学(コミュニティ・カレッジ)と

云うべき性格である。」と話してくれた。

この学校は、夏休み中であつたが、夏期大学を開設中で、美術部の教室を訪れてみた。陶芸教室では、先生も学生も泥んこになって制作に励んでいた。この教授は来年日本を訪問して、京都の陶芸を勉強すると話していた。

サンマテオ大学は、サンフランシスコ湾を眼下に見下す丘陵にあつて、非常に美しい景観である。校庭には何と云う名か知らないが紫の美しい花が咲き乱れ、女子学生が噴水のほとりでデッサンを仕上げている。



サンマテオ大学

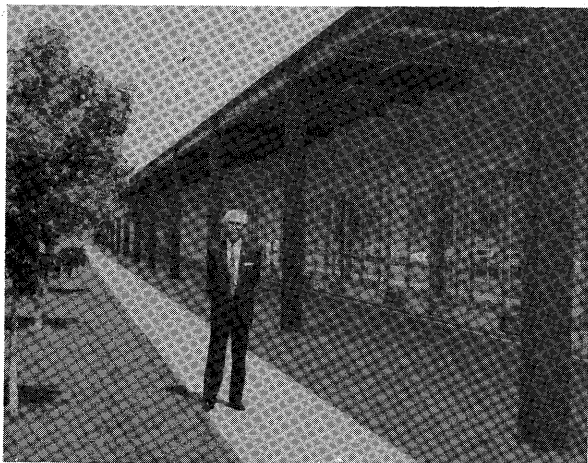
アラゴンハイスクール

アンダーソン夫人の案内でアラゴンハイスクールを訪問した。高級住宅地のなかのこの学校の環境は申し分ない。敷地は35エーカー(141,638㎡、42,845坪)の広さ、地形の高低の変化をうまく利用して校舎が配置されている。建物は平家建、柱はH型鋼を生地のまま使っている。建築は、外形的には簡素であるが、教室内の設備は非常に充実している。

校長先生に面会、話を伺った。この学校の生徒は2,000人で、授業は午前9時から午後3時20分まで、あとはクラブ活動、勿論全日制、先生は115人。この学校は、サンマテオ・ハイスクール・ディストリクトの設立である。

ハイスクール・ディストリクトは、アメリカにおける一般的な特別地方公共団体で、サンマテオ郡には7つのディストリクトがある。サンマテオ市内には、アラゴン、ヒルステイル、サンマテオの3高校がある。授業料は一切要らないが工作材料等の教材費は生徒の負担である。入学試験制度でなく学区制で、全部入学できる。4年制で、1学年500人、1学級250人(ホームルーム)が標準である。特別の講義は300人、グループ教育は10人ぐらいでやることもある。

私は、私立高校について質問したら、「私立高校として



アラゴンハイスクールにて

は、カソリック系高校（男子）900人、ノートルダム高校（女子）500人、マーシ高校（女子）500人があり、授業料は年300ドルくらいである。これは学区制ではない。寮制度である。

サンマテオ・ハイスクール・ディストリクトは、5人の委員で運営され、選挙で選ぶ。委員会は①予算を定める。②規則を定める。③視学指導を行なうことが任務である。

財政は、州から13%連邦政府から1%（特別計画によるもの）、地方税86%で運営される。昔は州と学区が50%づつ負担していたが、10年前から負担区分が変わって来た。」と説明していた。教育費は、いづれの国でも地方の負担が増えつつあるようである。地方税は、何に賦課するのかと云う質問に対しては、土地、家屋に一定の比率でかけるようである。豊中市でも教育税制度を採用すれば、現在の市税の2分の1は教育税になるだろう。

校舎を案内してもらったが、図書室—200人収容、蔵書2,000冊、トヨナクラブが設けられ月1回会合がある。語学教室—スペイン語、フランス語、ラテン語を教える。タイプライター教室。速記教室。速読教室（本を早く読む教育）。講義室—100人収容、模擬議会開会中で、政治、政府のしくみを教育中。また別の講義室では交通事故の映画を上映中で交通ルールを教育中。グループ教室—10人ぐらいがディスカッションをしている。自動車教室—まるで自動車修理工場のように、自動車のエンジンテストを教育中。カリフォルニア州では満16才から免許がとれるが満18才までは両親の同意がいる。木工教室。金工教室。航空工学教室—ヘリコプター、ジェットエ

ンジンの実物によって教育、3年で航空機関係に就職できる。電子工学教室—この教室が一番金がかかっているそうで、電子工学の基礎的な教育を行なうようである。

私は、設備を見て廻っているうちに、校長先生に「アメリカでは職業高校と普通高校と分けているのか」と質問したら、「職業高校はないがすべてこの学校のようなタイプである。」と答えていた。

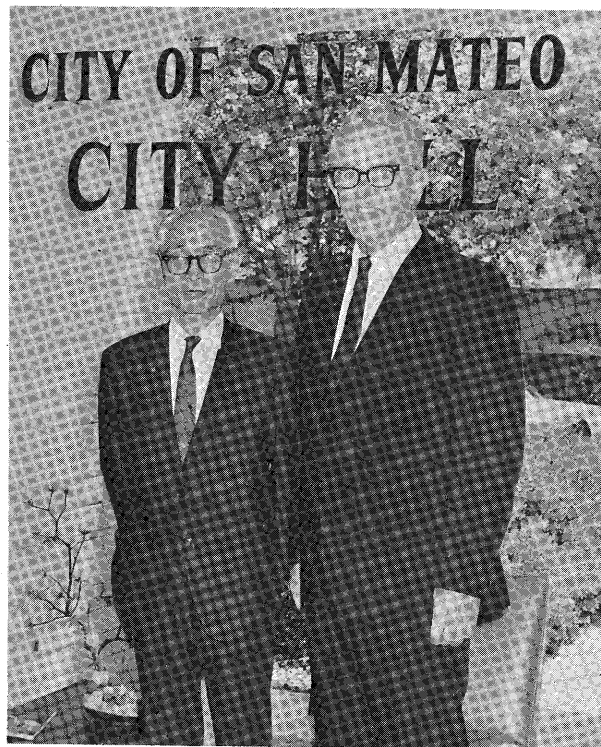
進学一本槍の日本の高校の在り方についてはどうだろう。考えさせられるものがあった。

サンマテオ図書館

最近完成した3階建のスマートな建物で、1、2階は閲覧室、中央にデスクがあり総て開架式である。面白いのは、全カリフォルニアの電話簿が備えつけられ、よく利用されているようである。豊中市でも近く図書館が改築され、面目も一新するが、サンマテオの図書室に劣らないものができるだろう。

ショットガンで武装したパトカー

7月30日午後5時羽田空港を飛び立ったJAL直航便は、



サンマテオ市役所にて、ウェイン市長と竹内市長

同じ日の午前11時サンフランシスコ空港に到着した（飛行時間9時間45分）。空港にはアンダーソン夫人、池田早苗日本人会長、ジム中田氏、加州住友銀行頭取をはじめ、日米の多くの人々の出迎えを受けた。空港には市警察差し廻しのパトカー2台が待ち受けていた。その1台に乗ったところ助手台にはショットガンが備えつけられてあった。一寸物々しいので聞いてみたら、西部では銃砲を多くの市民が持つ風習が多いようである。ウェスタン風景と云うべきところか、私は「日本ではパトカーに乗せられるのはあまり良いときではないが……」と云うと、警官は「サンマテオでは特別な賓客か、それとも悪い奴のいずれかだ」と云うので、「私はそのどちらだ」ときいたら、「勿論お客さんですよ」と笑った。ルート101（シスコからロスまでのフリーウェイ）をフルスピードで市役所へ向う。

市役所では、ウェイン市長はじめ市の幹部が玄関で出迎えてくれた。私は「1967年に訪問するお約束をしながら水害のため訪問を中止したことは残念であった。今日2年越しにサンマテオ市を訪問できたことをうれしく思う。」と挨拶したら、ウェイン市長は「あなたの訪問を心から歓迎する。」と歓迎の辞を述べられた。新聞社のカメラの注文にこたえてから、改めて公式に訪問することにしてホテルに向った。

六福か、七福か

アンダーソン夫人、ジム中田氏、住友銀行中野氏と斉藤サンマテオ支店長と共に一夕中華料理店「六福」で食卓を囲んだ。店主が挨拶に来て「当店の六福とは、富、地位、健康、長命、平和、奉仕の六つの福を表したものだ」という。私はすかさず「日本では七福神と云って1つ福が多い。七福神には1人だけ女性がいて、弁天という。弁天は美人の別名でもある。アンダーソン夫人は弁天さまだ。」と云ったら、一同大笑いになった。

豊中の夕

7月30日午後7時から市の真中にあるサンマテオ・カウンティ・フェアランドで、豊中の夕が開かれていた。私に出席して挨拶をせよと云うので、アンダーソン夫人の案内で行って見たら、サンマテオ郡の開始200年記念の博覧会が開催されていて、大勢の見物客で賑っていた。菊の品評会があり、大輪の菊が馥郁と咲き、ブルーリボンを多くつけたものも多い。日本では時期が早すぎるが、こちらでは丁度見頃か。

庭園のコンクールもあって、粋を凝らした造園が見られる。日本庭園もあり、ブルーリボンが多くつけてあった。



サンマテオカウンティフェアランドにおける「豊中の夕」で挨拶する竹内市長

説明によると、サンマテオのセントラルパークに日本庭園が造られてから一寸した日本庭園ブームらしい。アメリカ式の庭園は、花で美しく造られるが、毎年植え替えのしない日本庭園に評判が集まっているようだ。

豊中の夕は、野外劇場で行なわれていて、今日は剣道と柔道の形と模範試合が行なわれるようである。日系人で剣道五段の師範のほか有段者が多く、柔道も同じ。

ウェイン市長の挨拶について私が紹介された。私は「姉妹都市のサンマテオ市を訪問できて大変うれしい。今日日本から着いたばかりだが、皆さんにこうして挨拶ができる機会を得られたことを光栄に思う。皆さんと一緒に剣道と柔道の妙技を見させて載く。」と挨拶したら拍手がわいた。

日本庭園と云い、菊と云い、また剣道、柔道など、日本の自慢できる文化がどンドンこちらへ浸透していることは嬉しいことであるが、振り返って日本ではどうであろうか、もう一度よく日本の文化を考えて見直すべきでなからうか。

日系人の活躍

サンマテオ—ヘイワード橋を渡ったアラメダ郡のエデンという村にある柴田氏の花卉栽培農場を見学した。

案内を乞うて事務所へ入ってまず驚いた。IBMによるコンピューターによって事務管理が行なわれ、一寸した事業所といった感じである。渋谷さんという日系人の案内でバラの箱詰め工場を見学した。

冷房のきいた倉庫の中でパラフィン紙に包んだつぼみの

バラの花がパッキングケースに詰められている。この販路は全米は勿論、世界の市場に空輸されるそうである。

バラの栽培しているフレームは幾棟となく続き、品質管理は温熱、換気、散水、施肥、除虫作業はすべてオートメーションである。ただ、花の切取りはやはり農場の作業員が行っていた。

この農場主はこのほかサリナスにも農場をもち、ローズカーネーション、菊等の生花の生産を行なっている。

柴田氏のお宅は全くの日本建築で、庭園も粋を凝らしたものであった。

一世の柴田氏が苦勞して築きあげた農場で、遠いカリフォルニアにあっても故郷の風土を忘れることのできない一世たちの苦心がしのばれ、しばし異国にあるのを忘れて庭を散策させてもらった。

私は観葉植物の栽培はやらないのかと聞いたら、ここではやっていないが日系人でやっている所が近くにあるから見学しろと云うので、案内をしてもらった。

ヘイワード市にあるサニーサイド・ナースリイズ商会という農場を訪問した。吉田さんという婦人が案内してくれた。この農場では、菊をはじめペゴニヤその他の観葉植物を大量生産していた。中にははじめてお目にかかるアフリカスミレ (African Violet) という珍しい品種もあった。これにはパテントがあって、外国にも輸出しているそうである。



アフリカスミレ

丁度5時になるとサイレンが鳴って一斉に作業が終り、作業していた人々が帰り仕度をはじめ。作業員はメキシコ人が多いようだ。メキシコ人は英語が不得手な者が多く、このような作業では言語はあまり必要がないので就労する者が多いということである。かつての日系人の一世がやはりこうであったのであろう。

私は2つの農場を見学して日系人の活躍をうれしく思うと共に、ここまで成功したものは日系人の勤勉さと同時に秀れた技術によるものだろうと感じた。

また、私のサンマテオ訪問を歓迎するためにサンマテオの日系人の方々が私のために歓迎パーティをサンフランシスコの日本料理店“日光”で開催してくれた。池田早苗日本人会会長をはじめ40人の人々が集まって久し振りに会席料理で盃を上げた。この会に豊中市在住の石川氏夫妻がパークレーからわざわざかけつけてくれた。

私は池田会長と席を隣にしていたので、在米日系人についていろいろお話を伺った。サンマテオには日系人が550戸約2,000人が住んでいる。これらの人は、所謂一世(80才以上)は28人でそのほかは呼び寄せ、帰米(戦前の排日運動によって日本で教育、戦後帰米したもの)、在米生(50才~60才)という二世とあとは三世、四世で、三世、四世となると全く思想的にも、生活も違っている。日系人がここまで地位が向上したのは、やはり教育のお陰である。彼は、常に日系人に金を残すより子供に教育をせよという指導をしていると語っていた。

三世、四世の子供については、日本語教育を行なっているようで、日系人の高橋先生が120人の生徒を教育しているそうである。三世、四世の人たちは、日本語は聞くことはできても話すことはできない人も多い。

日系人の人たちは意外に日本国内のニュースには敏感で、常に日米間の問題については深い関心を持っているようである。

酒がまわるにつれて、日本人同志の宴会という気安さから無礼講となり、佐藤まつ豊師匠の三味線でそれぞれお国自慢の民謡が飛び出す。この人たちは、心中故郷忘れ難いものがあるのだろう。民謡は女人はだしの域で、楽しいパーティとなった。



日本庭園にて

日系人の多くは庭園や植木の仕事をしている者が多く、また盆栽クラブを結成し、一寸した盆栽ブームである。来米日本の名園と盆栽の視察のため来日したいということであった。

盆栽といえば、市役所の公園部長の部屋にも、市都市計画委員会の委員長の部屋にも松の盆栽が置かれてあった。こちらの松はパインツリーという大きな松かきのできる松で、一寸不かつこうな盆栽ではあるが、珍しいものであった。

植物検査のやかましいアメリカのことだから盆栽を輸出することは困難であろうが、日本の盆栽を持って行けばおそらく高い値がつくだろう。

セントラルパークの日本庭園には豊中市から寄贈した石塔があるので、公園部の杉本さんの案内で見学する。

日本庭園を配した築山と池のある日本庭園は、よく手入れが行き届いていて、池には鯉が放たれ子供がよるこんでいる。私の訪問を歓迎して振袖姿の2人の日系のお嬢さんが一緒にカメラに納ってくれた。

杉本さんの話では、日本庭園はサンマテオ市民の人気が集まっているそうである。樹木に大きな木が多いので聞いてみたら、オーク(樅)だそうで、大きな木はなるべく切らなくて保存をしているそうである。そう云えば、町を歩

いてもオークや松やユーカリの大き木がそびえていて、街のゆかしさを思わせる。

競馬と税金

ある日の午後、「今日は、あなたのレースがあるから出席してほしい」と、サンマテオ市にある競馬場へ招待された。私の競馬好きもこうなれば、まさに国際級と云うところかと自分ながら一寸恐れ入った。競馬は郡が開催していて、競馬場事務所の係員に特別席に案内された。アンダーソ夫人のほか未だ競馬を見たことのないアンダーソン氏、ジム・中田氏等と一緒に観戦した。

競馬場の雰囲気は、日本と少しも違わない。違うとすれば、馬券は、二ドルで、単勝式(Win) 複勝式(PlaceとShow)及び単複を組合せたもの(Combined)と第五レースと第六レースの一着馬を当てる重勝式(Daily Double)で、連勝式は発売していない。従って日本のように枠順というものはない。それだけに重勝式の配当は大穴になる可能性は非常に多い。

レース展開は、スタートからダッシュするテンの速いものが多く、いわゆる追込み馬より先行馬の勝つのが多い。馬券は、日本のように発売機によるトーターライザーで、配当倍率が出る。配当は比較的小さいが、それでも競馬の醍醐味は少しも変らない。

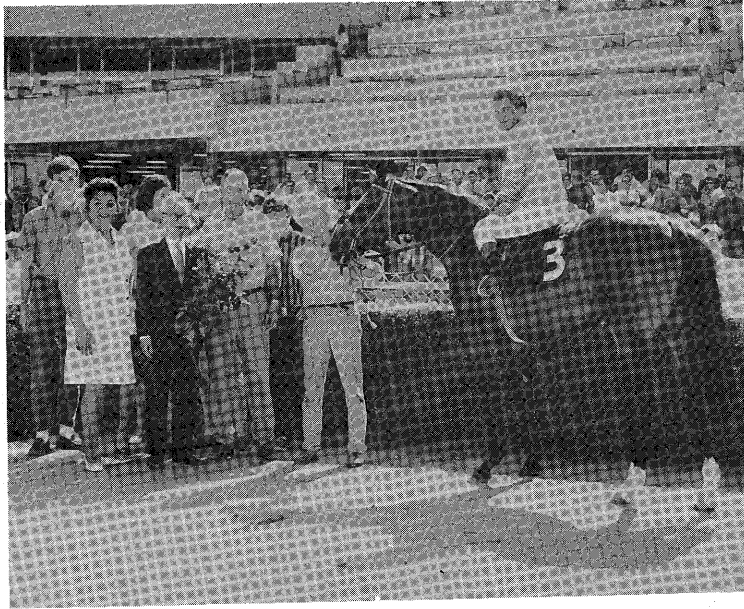
好きなものは格別で私は、特別席でじっとしてられない。下見所で馬を見たり、馬券を買ったり忙しいことである。五レースには重勝式を買ったが、予想外の馬が入賞して、1-6の組で97ドルの高配当となった。しまった1-6勝負とすればよかったと思っても後の祭りであった。第七レースは、三番にかけた。結果は見事に入賞した。私は正面表彰台で、三番の馬主と騎手に花束を贈呈して祝福した。馬主は奥さんや小供を連れて嬉しそうに私と一緒に記念写真に取っていた。競馬のある時は、車が混んで大変である。

私はある婦人に「日本ではギャンブルを地方公共団体が行なうことに反対があるが、こちらではどうか」と質問してみた。その婦人は、「どうしてそんな質問をするのか、若し競馬をやらなければ、それだけ税金が多くなるではないか」と答えていた。

1ドル銀貨とお守りの

キーホルダー

ウェイン市長は、私に、お金の不自由のしないマスコットをあげようと1ドル銀貨を下さった。アメリカでは今1ドル銀貨は通貨としては使用していないので珍しい。しか



—ベイメドウズ競馬場にて—

もサンフランシスコの造幣局の1800年代製造のものである。

ウェイン市長は、自分のスポーツカーで市長招待の夕食会の開かれるヨークというレストランへ私を案内して下さった。たまたま私は、信州善光寺のお守りつきのキーホルダを持っていたので、貴方は市長と云う責任の重い地位にあるのだから、スポーツカーでスピードを出しすぎて若し交通事故でも起したら大変だから、このお守りをキーにつけておいて下さい。と差し上げたら大変よろこばれた。ヨークではウェイン市長をはじめ市議員、市支配人夫妻、アンダーソン夫妻と晩餐会が催された。話はどうしても報酬の問題になる。ウェイン市長の給料は月45ドル(15,200円)だそうだ。随分安い。しかし市支配人の給料は月70万円である。こちらの市長は常勤ではない。私は豊中市では、市長は公選で、市議員が40名いると話したら、それは大変だ。自分の方では市議員は5人で1人が市長、1人が副市長で市議員は3人だ。それでも大変なのに40人もいたら市長は苦勞するだろうと大いに同情してくれた。

ウェイン市長にサンマテオ市政の問題は何であるかと聞いたなら、一番困っているのは税金の問題と、ゾーニング(用途地域)の問題であると話していた。いずれの市でも、市民の負担が一番大きな問題であり、同時に町の変遷に伴う土地利用の変化には問題が生じるようだ。

アメリカの風習であろうか、公式の場合は必ず夫人同伴であり、たまたまウェイン市長夫人は旅行中で欠席されたが、市長はただただそのことについて詫言いられた。

これから万国博が開催され、外国人との交際も多くなる

だろうが、女房同伴となると何や彼やと世間がうるさいことであろう。

サンマテオ市役所

サンマテオ市役所の建物は平家建て一寸見たところ会社の事務所のようである。市支配人のアーサー・B・サリバン氏に聞くと旧庁舎を処分して民間のビルを買ったそうである。

従って、他のアメリカの市庁舎のように警察や消防は同居していない。市庁舎としては狭いと云っていた。敷地は25,000平方フィート(2,225.8㎡、702.5坪)である。市の職員は550人で半数は警察と消防職員である。私の希望で庁内を一巡する。市支配人室は狭い。応接室も小人数の会議室程度である。

公園部一職員35人で部長は日本趣味、部屋の一部に床を置き軸を懸け、ガラスに障子紙を張り、書類棚の上には多くの日本の土産物が置物が飾られてある。大きなソロバンが机上に置いてあったので、使うのかと聞いたなら、使わないと云う。私はこれで計算をすると電子計算機より速い、私がやって見せようかと云ったら目をまるくさせていた。

リクリエーション部一市内にあるリクリエーション施設4ヶ所を管理する。この部には職員が30人いる。

税務部一部屋の前に市内の大きな地図が貼ってあって、一軒づつ固定資産の評価が示されている。

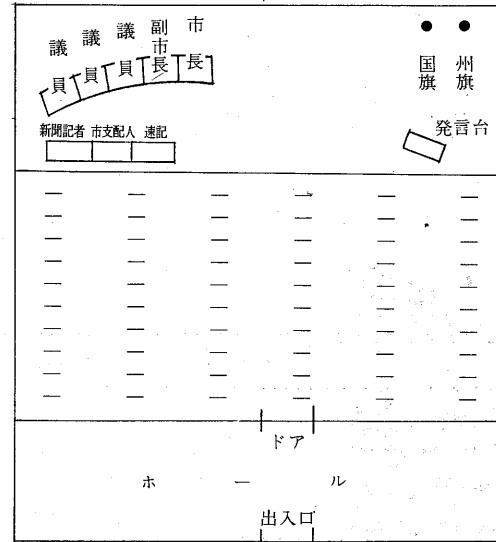
建築部一建築にはすべてここで許可が必要である。

計画部一ゾーニングをはじめ道路、公園その他市の計画を調整する。特にゾーニングの問題は市政の重要課題であるとのこと。私は参考のため地図を一葉もらった。

市議会会議室一市議会は毎週月曜日午後5時から開かれるのが通例である。会議室はごく狭く周囲の壁にはマジックボードが設けられ、計画の説明地図が貼られてある。ここは、議員懇談会形式に議事が行なわれるそうである。

市議会議場一別館となっていて一寸した小ホールのようなものである。

一段高いステージには5人の議席があり、市長、副市長、議員が着席する。その下に速記者、市支配人、法律顧問、新聞記者が着席する。発言台が正面に向かって右側に置かれてある。傍聴席との間には簡単なサクが置かれてあるだけで、傍聴者の椅子は208人分ある。市民は市議会に出席して発言が許可される。この場合毎週水曜日までに文書を以つ



サンマテオ市議会議場

て申込まなければならない。そんなに傍聴者が多いのかと聞いたなら市民に関係のある問題(税金問題とか建築許可の問題など)のときは、傍聴者があると云っていたが、通常の場合は少いらしい。このホールは、市議会のほか市民のいろいろの催し物に使われているそうである。むしろ市民会館的な利用をしているようである。

アメリカの中小都市の多くは所謂ウイークメイヤー(弱市長)制度を採用しているものが多く市長は市議会議長を兼ねていて、市支配人に市政の実際を委ねているようである。市長は月曜日だけ出勤し、他は出勤しないそうである。市長室も市議会会議室の一部を仕切った小さな部屋であるのみで、勿論市議会事務局のような部局はない。

アメリカでは日本のように市長議会制度(ストロング、メイヤー制度)を採用しているのは大都市だけである。私が豊中市は市議会の議員は40人であると説明したら、驚いていた。

市役所を訪ねる市民は非常に少なく事務室も閑散としている。しかし事務の機械化は徹底しているようである。

警察と消防

市警察署で次席と青少年の非行化の防止、交通事故の防止等の実情や対策について質問した。「青少年の非行化の防止は、最近スカイロケットのような勢いで増えている。この対策は警察だけでは解決できない。学校、社会その他あらゆる面の協力が必要だ。その原因についてどう思うか。」「私見であるが、戦争が終った後はこんな状態が起きやすい。むしろ世界的な傾向だろう。これはモラルの問題だ。戦争によってモラルが破壊されているのに原因があるよう

に思える。困った問題である。」と警察の立場を述べていた。

また、交通事故の防止については、「交通事故対策は3Eにある。すなわち

- ①技術(Engineering)
- ②教育(Education)
- ③取締(Enforcement)

この中で一番安くつくのは②である。安全教育を徹底している。特に、学校で自動車についての教育を行なっていて、警察も協力している。①は過去のデータで州、郡、市に連絡し改善を勧告している。

市は仲間同志であるから、すぐ解決するが、州や郡はなかなか改善できない。しかし、交通事故は技術的に解決できる問題が多いので、強く道路管理者に勧告し改善を促している。」

警察署長も帰って来られ更に、「大規模なデモ等の治安を確保する場合、市警察だけで困難なときはどうするか」と尋ねたら、「一次的には市警察が出勤し、市警だけで困難なときは相互援助協定によって隣接警察が応援する。そのほかハイウェイ・パトロール、郡の保安官にも協力を要請する。最後は州兵の動員が行なわれる。」ということであった。

市消防署では自慢のハシゴ自動車を見学する。面白いのは車輛にハンドルが前後にあり二人の運転手が操作する。このため小回りがきき、運転がしやすいそうである。このハシゴ車は33m級で車庫の中で写真を撮ろうとすると道路に引出してくれた。

更に、消防署長に質問をする。「職員は116人。3交代制。消防署は6ヶ所にあり、最底一署8人勤務である。最近一署を増設する計画で地買収の交渉中である。」と答えていた。

「消防団のような義勇的な消防組織があるか。」

「大都市はなくなっていった。近接消防とは相互援助協定を結び、相互に無電で連絡するようになっている。」

「サンマテオ市の住宅は木造建築が多い上に、雨が降らず乾燥が激しいが、火災の発生や水源の心配はないのか。」

「サンマテオは1月から4月までが雨のシーズン、5月から12月までは雨が降らない。しかし水の心配はない。木造建築は多いが不法建築がないので建物の類焼がない。これは防火建築基準が確定しているからである。一度不法建築があったが、徹底的に改善をさせた。建設業者が良く法を守っている。建物を目的外に使用するときも市の許可制である。被害保険会社の協会が各地の消防署の良否を調べている。消防署の施設の悪い所は保険料が高い。それで各



サンマテオ消防署 ハシゴ車にて
(ハンドルが前後にあるのに注意)

だ熱意と誠意で交渉をつづけ遂に実現できたと話していたが、関係者の苦労はさぞ大変であったことと思う。それにしても、日本の経済力の力強さを思わせるものがある。同行の今後の発展を期待すると同時に、日系人の強いバックになってほしいものである。

この銀行の周辺は全く新しいショッピング街で、アメリカ最大の「デパート」が進出しているほか、有名店が専門のショウウィンドを設け、多くのスーパーマーケットがある。人口8万の小都市にこれだけの購買力があるのかと感心させられる。

私は一つのスーパーマーケットのセルフサービスの食堂へ入ってみた。ここでは、アメリカ、

フランス、ドイツ、イタリア、メキシコ、中国などの世界の料理がお好みでたべられるようになっている。客は立て込んでいてテーブルをさがすのに苦労するぐらいである。

市民はショッピングのついでに食事を楽しむのだろう。あるいは食事のついでにショッピングをするのかどちらかだろう。

私はデパートを一巡してみた。全く日本のデパートの感じとは別で、服と靴ばかりで商品の種類はごく少ない、客も少なく、よくこれで商売が成立つのかと思われる。専門店も同じようなもので、人の多く入っているのはやはりスーパーマーケットである。しかし、スーパーマーケットの



加州住友銀行サンマテオ支店

市町村は消防には力を入れている。」

「損保協会は市町村の消防に財政援助をするのか。」

「財政援助はしない。例外として消防教育のため寄付することはあるが例は少ない。」

新しいショッピング

センターと銀行

サンマテオのヒルスデイル・ショッピングセンターにカリフォルニアで第10番目の加州住友銀行のサンマテオ支店が開店された。

私はサンマテオ市長と共にその開店式に招待された。式は金光教の神式によって行なわれ、両市長のリボンカッティングによって多くの市民が銀行ではじめての預金をした。この銀行がサンマテオの目抜き場所に進出するには多くの問題があったようである。

カリフォルニア最大の銀行はバンク・オブ・アメリカでその創始者ジャニーニのもっともゆかりの深いサンマテオである。現にエルカミノオ通りにはジャニーニを記念する支店が設けられ、その壁画は、サンマテオの名所にもなっている如くである。

日本系の銀行が新しくできたヒルスデイルショッピングセンターの一角に進出することは、日系人の多いカリフォルニアであっても困難であったであろう。この間の事情を加州住友銀行の中野氏は、た

商品は大衆的で主として日用品だけである。

このショッピングセンターは広い駐車場をもち、商業用駐車場はすべて地下にあり、全体としてゆったりとした感じである。

サンマテオ市の訪問を終えて

サンマテオの訪問を終えて、私は短い旅行であったが、いろいろ考えさせられるものがあった。その1つ2つ感想を述べてみたい。

① よく外国を旅行した人たちは、外国の町は美しい。公園や道路は広く市民は、公德心が高いと云われている。私は全くこれには同感である。しかし、それはどうしてなのか考えてみる必要がある。

私は、エルカミノ街道路の所に有名なエルカミノの鐘があるのを深い感銘を持っていた。日本の旧い道路に石の道しるべがひっそりと立って顧みる人のないようにエルカミノの鐘もひっそりと立っていた。有名なスタンフォード大学の近くで無残にも鐘が持ち去られるのを淋しく思った。

町が美しいのは、徹底した建築許可制にあることを考えれば、直ちにうなずける。日本のように最低基準に合致していれば、勝手な建築がまかり通るのとは違う。

もう一つは、建設業者が法令を確実に守っていることだ。それと市民は非常に樹木を大切にすることだ。自分の庭を大切に日本人がどうして公園や街路樹については無関心なのか考えさせられる。

もう一つは、建売住宅制度が徹底していることもあろう。何室の住宅がいくらという風に、土地と家屋が1つの商品となっている点だ。日本の場合は、好みの土地に好みの家屋を建てるのが通例である。勿論、最近では建売住宅は粗悪なものが多いようである。このせいか住宅地内における空地というものが目につかない。草ぼうぼうという空地が住宅地の真中に何年も放置されているのは、町全体の美観をそこなっている。

② 都市の基幹的な施設の計画が雄大であり、将来を考えていること。

サンマテオ橋でも将来の交通量を考えて一番金のかかる長大桁の部分は6車線とし、工事がやりやすい部分は4車線としていることを考えてもよくわかる。

また、地下鉄工事にしても世界最大の規模と技術で実施している。カリフォルニア水道サービス会社の給水施設にしても同じである。

これらの都市の基幹となるべき施設は、すべて広域的であり、且つその実現には公団方式、民営方式等実情に即して、実施機関を設け、それらにあるいは課税権あるいは起

債権を与え、民間の経営技術を取り入れていることである。

日本でも道路公団、住宅公団等を設けているが、どうも役所の外郭団体と云う感じが強い。

地方自治と云う点では、いわゆるホームルールの方式が徹底していて、ここは自分らの作った町だと云う考えが強い。私の見たホスターシティでもサンマテオ郡にあるが完成後は、おそらく新しい市として住民が望む市政府を構成するだろう。それをサンマテオ市は、編入することは考えていない。

サンマテオ市はわれわれが作った町であるホスターシティのために新しい税金を負担することはできないと云うのがその理由である。その反面、小さな都市が連たんとして互に競合して行政する不合理があるが、合併と云う手段を用いることは殆んどないようである。

このため、いわゆるオーソリティ方式が別に必要になるのではないだろうか。

日本でも大都市周辺の人口集中のため市域拡張論や拠点開発構想があるが、サンマテオ市でも若い市民層のなかには、今のような制度に疑問を持つ者もあるようである。

サンフランシスコ——オークランドベイエリアの多くの都市は、これからも一体化への道を歩みながら、自分らの町は自分らの手でと云う考えを変えようとしめない。この矛盾を持ちつつ試行錯誤をつづけて行くだろう。

【サンマテオ訪問日程】

- 1969年 7月30日(水)
 - 5:00 JAL羽田発 (以下現地時間)
- 7月30日(水)
 - 11:30 サンフランシスコ空港着市警差し廻しのパトカーで市役所訪問、ウェイン市長に表敬
 - 17:00 中国料理店六福で夕食会
 - アンダーソン夫人、ジム・中田、住友銀行サンフランシスコ本店中野氏、同サンマテオ支店長・テブ齊藤氏
 - 19:00 サンマテオ・カウンティ・フェアランド・フローラル・フィエスタに出席「豊中の夕」(ウェイン市長、アンダーソン夫人、池田日本人会長)
- 7月31日(木)
 - 10:00 サンマテオ・ジュニア・カレッジ訪問
 - 12:00 市都市計画委員会委員長ボージェス氏訪問ランチオンクラブで昼食会。
 - 13:00 セントラルパーク日本庭園見学

17:00 加州住友銀行サンマテオ支店開店披露レセプションに出席
 19:00 サンフランシスコ貿易センターにおける住友銀行関係者夕食会に出席

8月1日(金)
 9:30 アラゴンハイスクール訪問
 11:00 サンマテオ市立図書館訪問
 12:00 加州住友銀行サンマテオ支店開店式に参列
 14:00 サンマテオ・ベイ・ブリッジ見学、日系人農場を見学

8月2日(土) フリーデー
 サンフランシスコ観光
 17:00 アンダーソン夫人宅訪問(ウェイン市長、市会議員、支配人夫妻とカクテルパーティ)
 18:00 ウェイン市長招待夕食会出席

8月3日(日) フリーデー
 10:00 ホスター・シティ住宅地開発視察
 11:00 ポロ競技見学、あとスミス氏宅訪問
 18:00 サンフランシスコ日本料理店日光におけるサンマテオ日系人主催観迎会に出席

8月4日(月)
 9:30 市役所訪問、市支配人その他幹部と懇談

11:00 市下水道処理場視察
 12:00 サンマテオ・ダウンタウン・ライオンズクラブ、ホストクラブ合同例会に出席
 14:00 サンマテオ、カウンティ主催競馬に出席、第7レースに豊中市長賞授与
 17:30 リクレーションセンターにおける姉妹都市提携委員会主催レセプションに出席。

8月5日(火)
 9:30 市警察署訪問(警察署長及び次長と懇談)
 10:30 サンマテオ新聞社訪問(副社長、編集長と懇談)
 11:30 市消防署訪問(消防長及び幹部と懇談)
 17:00 サヨナラパーティに出席(アンダーソン夫妻、中野氏、斎藤サンマテオ支店長)

8月6日(水)
 8:30 市警察差し廻しのパトカーで空港へ向う。加州住友銀行山崎頭取、中野氏、斎藤氏、アンダーソン夫人、ジム中田氏その他多数の見送りを受く
 10:00 JAL 5便でサンフランシスコ発
 —ホノルル経由—

8月7日(木)
 17:00 羽田着

★ 姉妹都市だより ★

【サンマテオ市政創建75周年記念】

今年は、サンマテオ市が市政を施行して以来75周年に当り、地元ではこれをダイヤモンド記念として盛大に行事が催されています。豊中市にも、姉妹都市として喜びを分かち合いたいとのような記念メダルがウェイン市長の好意で多数送られて来ました。



【サンフランシスコで盛大に日本週間開かれる!!】

サンフランシスコでは去る9月5日から16日間を日本週間と定め、日本の紹介と来年吹田市で開かれる万国博の宣伝を兼ねて行事が盛大に行なわれました。中でも、サンフランシスコ市と姉妹都市である大阪市からは大阪城のミニチュアが展覧され人気を集めました。豊中からもシンボルマークを染めぬいた旗差物を12本送り、ユニオンスクエアの会場前を飾りました。

【アンダーソン夫人三度び会長の座につく】

豊中にも2回来たことのあるおなじみのメアリー・L・アンダーソン夫人は、サンマテオ姉妹都市提携委員会会長として三度び指名されました。同夫人は、サンマテオを訪門する豊中市民・学生たちを親身になって世話をし、姉妹都市提携事業に対しても非常に熱心に活躍をして下さっております。

【ミス豊中・若林民子さん
 姉妹都市を親善訪問】

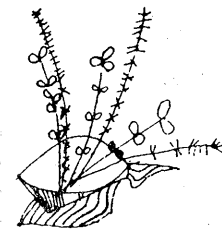
昨年11月、ミス豊中の栄冠を見事に獲得された若林民子さんは、親善使節として今年3月31日から4月6日まで姉妹都市サンマテオを訪問いたしました。

サンマテオ市では、姉妹都市提携委員会が中心に色々なスケジュールを組み、この豊中市代表の親善使節を歓迎して下さり、また、若林民子さんも期待に応じて無事大役を果たされました。



空港でアンダーソン夫人と子供たちに
 出迎えられるミス豊中の若林民子さん

サンマテオ市では、トーマスF・マクガイガン氏宅の家族の一員として民泊され、サンマテオ大学在学中のキャシィ嬢と姉妹となって楽しい毎日を過され、サンマテオ市民・子供たち・学生及び各種団体との交流の場をできるだけ多くもち、両市の友好と親善に多大の貢献をされました。



【姉妹都市協会総会・開催
 本年度事業計画きまる】

去る6月27日(金) 豊中市立市民会館において、昭和44年度総会を開催いたしました。丁度、東京で開催のライオンズ世界大会に出席のため来日していたジム中田氏夫妻がこの総会にかけつけてこられ、ミス豊中に選ばれた若林民子嬢のサンマテオ訪問の際に写したスライド写真を映写して説明をしていただきました。同氏夫妻は、豊中・サンマテオ姉妹都市間にあつて友好と親善の橋わたしに多大のご尽力をされております。

総会后、「ワンダーフル・ワールド・オブ・サンフランシスコ」の16ミリカラーフィルムを映写してサンフランシスコ市周辺の紹介をしました。

昭和44年度事業計画

1. 姉妹都市活動の推進と協会会員の拡充並びに組織の確立
2. サンマテオ市民等の接待交歓
3. サンマテオ市への訪問者に対する紹介
4. 両市の類似団体の提携あつせん
5. 会員子弟の留学に対する側面的協力
6. 協会会員の文通ほんやくあつせん
7. 教育資料等の交換あつせん
8. 芸術、文化等の交流並びに各種の催物
9. 記念物品の交換
10. 広報活動の推進



姉妹都市協会総会の席上で挨拶されるジム中田氏

短 信

- 昭和44年3月31日 ミス豊中に選ばれた若林民子嬢姉妹都市親善訪問のため日本を出発（4月13日帰国）
- 3月31日 サンマテオ市創建75周年記念メダル届く。
- 4月7日 ヒュー・A・ウェイン氏サンマテオ市長に指名される。
- 4月21日 パシフィック大学歯科助教授のドクター・メルルC・メンソー氏が学術講演のため来日。豊中歯科医師会及びライオンズクラブと交歓



メンソー博士からライオンズクラブにメッセージが手渡されるところ

- 5月5～6日 サンマテオ市のレクリエーション委員会のメンバーの1人であるウィリアム・カイル氏夫



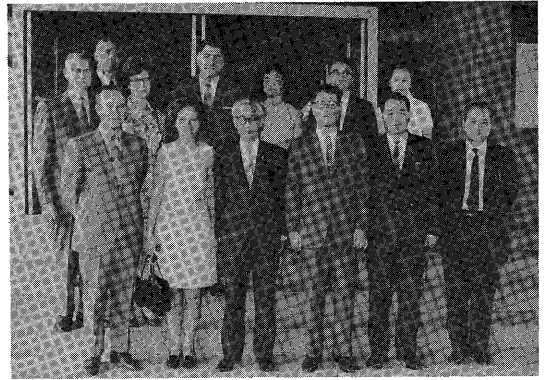
ウィリアムカイル夫妻 一服部緑地にて一

編集後記

永らく休刊となっておりました都市提携ニュースを再び発刊いたしました。今回は、特に竹内市長から多大のご寄

妻来豊。千里ニュータウン、服部緑地を見学

- 5月25日 ハワイで開催されたロータリークラブ世界大会でサンマテオロータリークラブと豊中ロータリークラブとが交歓。
- 6月17～18日 ヨーロッパに2年間留学していた北村豊太郎氏が帰国の途次にサンマテオ市に立寄り、エルマS・アンダースン牧師宅に民泊。サンマテオ姉妹都市提携委員会のメンバーと交歓。
- 6月27日 東京で開催のライオンズ世界大会に参加のため来日していたジム中田氏夫妻が姉妹都市協会総会に急拠出席、協会会員と交歓
- 7月14日 スチーブ・リード氏夫妻外2名来豊。姉妹校の螢池小学校を親善訪問後市内見学（リード夫人はジョージホールスクールの4学年担任）
- 7月14～15日 サンマテオライオンズクラブ8名来豊。豊中ライオンズクラブと交歓



サンマテオライオンズ一行

- 7月21日 海外青小年交流協会の派遣団の一員としてアメリカ西海岸視察の竹内訓夫氏が姉妹都市を訪問
- 7月30～8月6日 竹内義治市長 サンマテオ市を公式訪問
- 10月20日 京都裏千家に1年間お茶の修業をしているローラ綿貫嬢来豊
- 11月12日 S・浜崎夫人が菊楽いと子夫人及び村司悠峰氏の文化交流の功績をたたえたサンマテオ姉妹都市提携委員会の表彰状を携えて来豊。

稿をいただき、心からお礼申し上げます。今後引き続き発行いたしますつもりですので、皆さん方の特にサンマテオ訪問者のご寄稿をお待ちいたしております。

【会員募集】	個人会員 (入会金 500円 会費年額 1,000円)	学校・ 団体会員 (入会金 1,000円 会費年額 2,000円)	法人会員 (入会金 5,000円 会費年額 10,000円)
---------------	--------------------------------	---	-----------------------------------